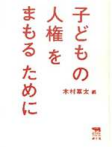
推薦学科	タイトル	著者・編者	紹介文	書　影
社会福祉学科	みいちゃんのお菓子工房 12歳の店長兼パティシエ誕生～子育てのアンラーニング	杉之原　千里	滋賀県にある三角屋根のケーキ屋さん『みーちゃんのお菓子工房』。店長であるパティシエ“みいちゃん”は、極度の不安から「場面緘黙症」という自分の意思で自分の身体を動かせない症状と闘う日々を送っている。本書は、“みいちゃん”の母である杉之原千里さんが、“みいちゃん”や家族との日々を振り返りながら、子どもの生きる権利を支えるために、親である大人の気づきについて語っています。 私たちは、知らず知らずに自らの価値観で物事を判断しています。多くの価値観の集合体を「常識」という名詞で表現をして、子どもたちを大人が求める型に埋め込んでいるのではないでしょうか。 “みいちゃん”は、「自由になれる時間」「自分らしくいれる時間」ができたことで自分の意思で自分の人生を歩みだし、12歳でパティシエとしてお菓子工房をスタートさせます。いまある「常識」ではなく、いまを生きる子どもたちに「柔軟」に関わりつづけていく社会のあり方を、本書を通じて考えてみてください。「学生さん達には、この世に生まれるすべての人間の尊さを感じてほしい」と杉之原さんからのメッセージです。	
	健康で文化的な最低限度の生活	柏木　ハルコ	憲法第25条が保障する「生存権」。教科書の言葉として見聞きしたことのあるこの理念が、現実にどのように人々の生活を支えているのかを考えたことはあるでしょうか。本書は、新人ケースワーカーとして生活保護業務に挑む主人公の姿を通じ、福祉の現場と受給者が抱える現実をリアリティ豊かに描いた作品です。病気、貧困、孤立……多様な困窮の背景にある声に耳を傾ける中で、「生きる権利」とは何か、そしてそれを支える社会のあり方とはどうあるべきかが問いかけられます。生活保護制度の理解にとどまらず、他者の痛みに寄り添うことの難しさと尊さを教えてくれる一冊です。	
医療福祉学科	佐々木インマイマイン	植西　聰	佐々木コールに全裸で踊るお調子者の高校生、佐々木。ある日彼に起こったある現実に友人の悠二たちは戸惑います。佐々木の生活の困窮、表に出さない寂しさや不安に気づきながらも触れずに過ごしてきたのに、そうできなくなったのです。その数年後にあたる今と高校時代とがリンクし、悠二は大切なことを先送りにしてきた自分を大きく変えます。なぜ佐々木は人を頼らないのか、自分の近くにいたらどうするかなど考えて、一緒に佐々木コールもしながら観てみてください。	
	いい加減な人ほど英語ができる	堀江　珠喜	英文学者によるユニークな言語・コミュニケーション論。「完璧な言葉」を求めず、不完全でも意思を伝え合うラフさの大切さを説いています。キャンパス内で増えている留学生との国際交流や、異文化理解の根底にある「お互いの違いに寛容になること」を笑いながら学べる一冊です。	
子ども教育学科	ようこそ こどものけんりのほん	えがしらみちこ／子どもの権利・気持ちプロジェクト	今、注目を集める「子どもの権利」を、えがしらみちこさんのあたたかいイラストがやさしく紹介してくれます。 権利というと、一見難しいイメージがありますが、子どもたちと子どもに関わる大人を守る大切なもの。 子どもの権利のはじめの一歩を親子で学べる絵本です。 カバー裏には子どもの権利条約ポスターを印刷。	
	イラストで学ぶジェンダーのはなし	イリス・ゴッドリーブ	現在、私たちは多様性を理解し、自分とは異なる意見や生き方を尊重し共に生きる時代にいます。2015 年に国連で開かれたサミットにおいて世界のリーダーにより決められた、SDG s (Sustainable development Goals（持続可能な開発目標）では、ジェンダー平等の実現が国際社会の共通の目標の一つとして掲げられています。本書では、ジェンダーをめぐる基本用語集とその解説、歴史的な出来事や事件などがわかりやすい言葉とイラストで描かれており、これからの時代の「当たり前」を身につけるための新しいガイドブックとなっています。	
社会創造学科	「だれにも言っちゃだめだよ」に従ってしまう子どもたち	櫻井　鼓	子どもに対する性的虐待がなぜ表に出にくいのか、加害者の巧妙な「ずるい言葉」が被害者にもこれから想定されうる子どもにも抑止となるわかりやすい言葉で説明された良書です。特に、本書では「ずるい言葉」の具体的な事例が詳細に説明されていて、子どもを守る力になっています。	https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784866214894
	マイスモールランド	川和田　恵真	日本で育ったクルド人の高校生サーリャが、在留資格を失ったことをきっかけに、家族や友人との日常、進学など、これまで当たり前だった生活に直面する困難を描いた作品です。在日外国人や難民を取り巻く問題を、ひとりの高校生の視点から身近な問題として考えることができ、多文化共生や人権について理解を深めるきっかけとなる映画です。	書影なし

推薦学科	タイトル	著者・編者	紹介文	書　影
心理学科	あいつゲイだって アウティングはなぜ問題なのか?	松岡　宗嗣	本人の性のあり方を同意なく第三者に暴露することをアウティングと言います。1991年、一ツ橋大学でゲイであることを友人に暴露された男性が転落死する、という事件が起こりました。遺族は友人と大学を提訴し、これをきっかけに社会的に性的指向や性自認に関する個人情報が本人の同意なく漏れることによって、個人の尊厳が脅かされ、命の問題にもつながりうることが認識されるようになりました。対人援助職につく人のみならず、全ての人に必須の一冊です。	
	「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。	小川　たまか	性暴力被害、痴漢被害、ジェンダーの不均衡の問題など、社会に確かにあるにも関わらず見なかったことにされたり、「被害者の方にも落ち度」があるから自業自得なのではといった偏見にさらされたりしがちな社会問題について、作者が独自の視点から切り込んだルポタージュです。	
理学療法学科	ネットでいじめられたら、どうすればいいの？	春名　風花	誹謗中傷や嫌がらせなどのＳＮＳいじめは世界が敵になったと感じてしまう。見えづらいSNSいじめを一人で抱えないために具体的な対応策と心のケアを、弁護士、社会起業家、精神科医などの専門家らとお話しされています。あなたと大事なだれかを守ってくれる一冊になると思います。 目次／いじめの根底にあるもの／一人で抱えないために／どんな解決策がある？／法律は守ってくれる？／心の傷はいつか癒える？	
	身の回りから人権を考える74のヒント	滋賀県農業協同組合中央会	教育虐待、ジェンダー、ヤングケアラー、何気ない言葉など、日常に潜む身近なテーマから人権を考える一冊です。特別なことではなく「自分事」として差別や多様性を考えるヒントが詰まっており、日々の違和感を見過ごさない大切さを教えてくれる、大学生にこそ勧めたい入門書です。『身の回りから人権を考える80のヒント』(2020年刊)の第2弾となる書籍です。 目次／差別と人権／人権への取り組みと課題／多様性とダイバーシティ／書籍・映画・芸術から人権を学ぶ	
作業療法学科	難民・移民のわたしたち	雨宮　処凛	雨宮処凛さん著の『難民・移民のわたしたち ―これからの「共生」ガイド』は、「14歳の世渡り術」シリーズの一冊として、日本に暮らす難民・移民の人々が直面する現実を浮き彫りにする超入門書です。 「遠い国のこと」ではなく、「隣のあの人」のこととして、当事者や支援者、子どもたちの生の声を集め、彼らが日本で何に困っているのか、どのような生活を送っているのかを丁寧に伝えています。ミャンマーからの難民やアフリカからの移民、チリのクーデターから逃れてきた人々など、具体的なケースを通して、日本における難民・移民政策や入管の問題点にも触れています。 貧困問題に長年取り組んできた著者だからこそ描ける、偽りのない“リアル”な実態は、読者に「自分ごと」として問題を捉えるきっかけを与えます。複雑な社会問題を分かりやすく解説し、未来の共生社会を考えるためのヒントが詰まった、必読の一冊です。	
	わたしたちの世界を変える方法　アクティビズム入門（14際の世渡り術）	中村　眞大	「それ、おかしくない？」と思ったら……。「社会を変えるため、声をあげることをもっと当たり前にしたい！」という行動を始めた若者たちと対話してみませんか？平均年齢19歳（執筆時）の著者たちが伝えたいこととは、あたりまえの目の前に起こっている社会課題・・・。第１章　私たちの地球って大丈夫？――環境問題、第２章　安心して暮らせる国にするには？――平和と民主主義、第３章　性の不平等をなくすには？――ジェンダー問題、第４章　日本で暮らす多様な人々と共に歩む未来って？――グローバル化と人権、第５章　私たちの学校を変えるためには？――校則・教育改革、誰もが安心して生活できる社会って？――若者の貧困。 日々の暮らしの延長線上にあるさまざまな社会課題に取り組む若手アクティビスト22人。同世代や次世代のための、今までにまったくなかった新しい本です。声を上げるのに年齢も性別も国籍も関係ない！という著者たちのメッセージが響きます。	

推薦学科	タイトル	著者・編者	紹介文	書　影
言語聴覚学科	スクールハラスメント	著者　神内　聡（監修）ISBN 9784-378-02535-3	きびしすぎる指導、セクハラ、いじり……きみの学校生活を守るには。 知っておいてほしい、学校で起きるハラスメントのこと。 子どもの権利と、法律の視点から、スクールハラスメントが説明されています。また、スクールハラスメントを知るだけでなく、どのように立ち向かうかも知ることができます。 ・いじめ ・体罰、暴言、きびしすぎる指導 ・セクハラ ・ジェンダーハラスメント ・SOGIハラスメント ・レイシャルハラスメント ・スポーツハラスメント ・いじり、パーソナルハラスメント ・ソーシャルメディアハラスメント	
	高校野球と人権	著者　中村　計　　ISBN 9784041149935	日本人に愛される「高校野球」から日本人が苦手な「人権」を考える 甲子園から「丸刈り」が消える日―― なぜ髪型を統一するのか なぜ体罰はなくならないのか なぜ自分の意見を言えないのか そのキーワードは「人権」だった 人権の世紀と言われる今、どこまでが許され、どこまでが許されないのか 高校野球で多くのヒット作を持つ中村計氏が、元球児の弁護士に聞いた 日本人に愛される「高校野球」から日本人が苦手な「人権」を考える。 知的エンターテインメント作品です。	
	【DVD】あん	川瀬直美×ドリアン助川	たくさんの涙を越えて、生きていく意味を問いかける 「私達はこの世を見る為に、聞くために、生まれてきた。この世は、ただそれだけを望んでいた。…だとすれば、何かになれなくても、私たちには生きる意味があるのよ。」 縁あってどら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々をこなしていた千太郎(永瀬正敏)。 そのお店の常連である中学生のワカナ(内田伽羅)。 ある日、その店の求人募集の貼り紙をみて、そこで働くことを懇願する一人の老女、徳江(樹木希林)が現れ、どらやきの粒あん作りを任せることに。徳江の作った粒あんはあまりに美味しく、みるみるうちに店は繁盛。しかし心ない噂が、彼らの運命を大きく変えていく…	
図書館	子どもの人権をまもるために	木村　草太	子どもの人権、という言葉を聞いた時、この言葉を知らない方はもちろん、知っている方の中にも、どんなものか具体的にはわからない方がいるかもしれません。本書では家庭、学校、法律の三つの面から、子どもが実際に直面している問題を紹介しています。そのため具体的な例を通して「子どもの人権」について考えることが出来る本となっています。	
	映画で読み解く東アジア	全　泓奎	本書では福祉や社会学の視点で東アジア諸国の社会問題を考えるものです。映画という馴染みのあるものを通して社会問題を学ぶことが出来るので、社会問題を学ぶ本としても触れやすいものになっています。映画が好きな方はもちろん、社会問題を学ぶ入門書としてもおすすめの1冊です。	
	大阪府人権白書ゆまにてなにわ40	大阪府府民文化部人権局	大阪府府民文化部人権局発行の『大阪府人権白書 ゆまにてなにわ』は、一人ひとりの人権が尊重される豊かな社会づくりを目指して編集された情報誌です。人権の基本的な考え方をはじめ、行政や地域の取り組み、身近な人権課題、各種相談窓口までわかりやすく解説しています。人権に関する情報がコンパクトに網羅されていますので、人権学習には最適な情報誌です。	
	多様性とどう向き合うか 違和感から考える	岩渕　功一	「みんな違って、みんないい」と言われる一方で、「本当にそうなのかな？」と違和感を感じたことはありませんか？ この本は、その違和感を起点として多様性とどう付き合っていけばいいのかをじっくり考えるためのヒントをくれる一冊となっています。	